

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人 勝又	代表者	高橋 成夫	法人・ 事業所 の特徴	「自宅以外、もう一つの家がある安心」をモットーとして、介護の場所・時間を限定せずに、安心して生活できる場所を提供いたします。
事業所名	デイホーム すいふよの郷	管理者	松本 京子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	2人	2人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	コロナ禍で開けなかったミーティングを開く	月1回のスタッフミーティングを開くことが出来ている。自己評価により、達成出来ていない取組みを自覚出来ている。	具体的で達成可能な計画になっている。	年度途中(8月)から入職したスタッフは、前年の改善点や自己評価自体の目的が分からず戸惑っていたので、1年を通じて取組みを繋いでいくよう周知する必要がある。
B. 事業所のしつらえ・環境	談話室のトイレの環境が丸見えになっている。	パーテーションで目隠しすることによって、使用者のプライバシーを守り、談話室内が不快な場所にならない様配慮されている。	事業所の環境として、今までの駐車場が使えず、施設前に停めているが、車の出し入れが必要な事態が生じそう。	駐車場の件は、隣の飲食店に短時間使わせて頂ける様お願いするのはどうか。
C. 事業所と地域のかかわり	地域ケア会議なども有効に活用して、地域情報をさらに共有したい。ほっとカフェやNEXT10の講習会にも参加する。	アクションミーティングやほっとカフェは定期的に参加している。	家族からの相談は受けることが出来ているが、地域住民との関わりはまだ薄い。年2回の美化作業など、積極的に関わってみては	スタッフの挨拶が出来ていない時があるようなので、外部からの訪問者に挨拶と要件伺いは必須。「前の道を通るだけでは、何の施設か分からない。」意見有。外壁に看板を設置したらどうか。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	慣れ親しんでいる床屋やカーブスなどの送迎を続ける。資源回収や、他科受信の送迎も検討する。	個別のニーズに可能な限り応えることが出来た。	文化祭やどんど焼き、さくらまつりなど、出掛けていることが、すいふよう新聞で周知され、とても良い。	地域の集まりに顔を出す。(関本の自治会議など)
E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナ禍で運営推進会議が縮小していたが、今年度は家族や地域の方にも参加して頂く。	家族や、民生委員さん、自治会長さんの参加を頂いている。	足柄神社の祭典は、自治会長さんが運営推進会議に参加していないと分からない情報。沿道での声援や祭典の手伝いの意向も伝	運営推進会議に自治会長さんだけでなく民生委員さんや地区の組長さんと呼んで、施設を知っ

			<p>えることが出来た。6年振りの開催なのでまだどうなるか分からないが、開催されたら、大いに盛り上げ、施設からの参加も柔軟に対応したい。</p>	<p>てもらう。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>近隣との話し合いが行われた経緯がないので、今後の課題としたい。</p>	<p>隣のレストランの駐車場を災害時の待機場所として使うことを了承して頂いた。</p>	<p>市役所より、個別避難計画はまだ策定しておらず、民生委員のネットワークや自治会としての機能も防災対策については不十分。市役所としては、自助、共助、公助の順に準備してほしい。</p>	<p>介護の相談会を定期的を開く</p>